

母親の乳幼児養育に関する調査

—ブックスタート事業との関わりから—

Research on Infact Rearing

—From the Relation of the Investigation of Bookstart Program—

原 崎 聖 子・篠 原 しのぶ

Seiko Harasaki・Shinobu Shinohara

キーワード：ブックスタート 乳幼児 養育意識
絵本

はじめに

われわれの今回の乳幼児期における調査はブックスタート事業に関連したものである。そもそもブックスタート運動とは、乳児健診時に読み聞かせのアドバイスとともに絵本の入った「ブックスタート・パック」をプレゼントするという運動である。この運動は1992年に英国第二の都市であるバーミンガム市でブックトラスト（教育基金団体）が中心となりバーミンガム中央図書館、南バーミンガム保険局、バーミンガム大学教育学部の緊密な連携のもとに、スタートしたものである。

この運動における英国での当初の目的は、読書推進運動と近年急速に多民族国家への道をたどったことによる識字率の低下を救うことにあった。しかし現在ではShare books with your babyというキャッチフレーズの元に「親子が絵本を通して楽しい時間を共有する」ということにその目的が移行している。

わが国においても2000年の「子どもの読書年」推進会議によって紹介され、急速に普及してきた。その背景には、近年、地域社会や家庭生活が大きく変化し、核家族の中で子育てが不安が増加していることや、親から心身ともに虐待される子どもや放任された挙句、甚大な被害をこうむる子ども等に関する事件が多く報じられているという現実があるということ、更には、現代社会で叫ばれている人間関係の稀薄さの原因をま

ず、家庭から取り除こうという動きが大きくなったこと等が存在すると思われる。そのような状況の中、親と子のぬくもりのある関係作りを、絵本を媒体として支援しようという運動が日本におけるブックスタートの始まりとなり、かなり速いスピードで各地に広まったと言えよう。

ブックスタート運動は、親と子の温かい人間関係を築くために非常に大事なものであるという認識のもとに始まっている。そもそも人間関係の基礎は、コミュニケーションによって築かれるものである。コミュニケーションの語源は「共有する」「共通理解する」という意味を持ったものであり、ひいては、「人間と人間との間に、共通性を打ち立て、共感を呼ぶための行為全般」を意味するようになったと言われる。

現在、このブックスタート活動は、英国に始まって、オランダ・ドイツ・ニュージーランド・ポーランド・南アフリカ・メキシコなど世界中で、それぞれの国に合わせた目的をもちながら広がりを見せて行っている。また、日本でも47都道府県全てがこの運動を取り入れ、133の自治体がこの活動を推進中である（2004年9月30日現在）。そしてすべての根底には「赤ちゃんの幸せを願う」という共通した理念が横たわっている。

日本においては、2000年に東京都杉並区及び北海道恵庭市がブックスタート事業をいち早く開始し、それと同時にさまざまな角度からの調査が進められてきた。

われわれは、これら先行するブックスタート事業を参考にしながら2001年9月より準備を始めてきた小郡市に協力して、ブックスタートに関する調査を実施す

ることとした。

今回は、その第一報として 1. ブックスタート事業に絡めた絵本利用に関する実態調査 2. ブックスタート事業の有効性についての2点を主として、調査結果をもとに考察しながら、親子の愛情あるつながりがどのように育成されていくかを考えてみることにする。

I. 調査手続き

調査対象者 小郡市在住の10ヶ月児を養育中の親
(主として母親)

事前調査 75名

事後調査 109名

調査期間 2003年9月～2004年9月

調査内容

- ・読み聞かせの度合い
- ・テレビの見せ方
- ・絵本に対する子どもの反応
- ・親(たち)の絵本に関わる意識
- ・親(たち)のブックスタート後の変化
- ・両親はじめ家族の子育て援助

その他

5段階評定項目

5：非常にそうである～1：全くそうでない

方法：事前調査

10ヵ月乳幼児健診時の「ブックスタートパック」の説明直前に絵本や育児に関する聞き取り調査を実施した。

事後調査

10ヵ月乳幼児健診時の「ブックスタートパック」の説明および読み聞かせのアドバイス後にパックを渡し、2週間ののちにパックに同封された質問紙を返送してもらった。

I. 事前調査について

ブックスタートに関する説明および読み聞かせに関する実施要領と説明をする前に、母親の絵本に対する意識や子育て観についての聞き取り調査を実施した。

質問内容及び調査結果を以下に示す。

1. 実態調査

(質問内容詳細)

1. あなたは絵本を見たり読んだりするのが好きですか。
2. お子さんと絵本を一緒に見たり読み聞かせをすることがありますか。
3. それはどの程度行いますか。
4. 赤ちゃんはいつ頃から絵本を楽しめると思えますか。
5. あなた自身は幼いころに絵本を読んでもらったことがありますか。
6. あなたは読書が好きですか。
7. お子さんと一緒に絵本を見ることでどんな良いことがあると思えますか。
8. 現在の養育についての質問(11問)。

表1-1. 絵本を見たり聞いたりするのが好きですか

項目	人数	割合
非常に好き	36	48.0%
まあまあ好き	33	44.0%
あまり好きではない	6	8.0%
好きではない	0	0.0%
計	75	100.0%

表1-2. お子さんと絵本を見たり読み聞かせをすることがありますか

項目	人数	割合
あ る	60	80.0%
な い	15	20.0%
計	75	100.0%

表1-3. その頻度はどのくらいですか

項目	人数	割合
毎 日	12	20.7%
週4～5回	10	17.2%
週1～2回	24	41.4%
月に数回	9	15.5%
ごくたまに	3	5.2%
計	58	100.0%

表1-4. あかちゃんはいつから絵本を楽しめると思えますか

項目	人数	割合
生後すぐ	7	9.5%
3～4ヶ月	13	17.6%

5～6ヶ月	7	9.5%
7ヶ月～1歳	14	18.9%
1歳～1歳半	16	21.6%
1歳半～2歳	11	14.9%
2歳～2歳半	3	4.1%
2歳半～3歳	2	2.7%
3歳以上	1	1.4%
計	74	100.0%

表1-5. あなたは幼いころ絵本を読んでもらいましたか

項目	人数	割合
よく読んでもらった	23	30.7%
ときどき読んでもらった	16	21.3%
あまり読んでもらわなかった	8	10.7%
読んでもらったことはない	10	13.3%
覚えていない	18	24.0%
計	75	100.0%

表1-6. あなたは読書が好きですか

項目	人数	割合
非常に好き	30	40.0%
まあまあ好き	28	37.3%
あまり好きではない	15	20.0%
好きではない	2	2.7%
計	75	100.0%

表1-7. お子さんと一緒に絵本を見ることでどんな良いことがありますか

項目	人数	割合
子どもが本好きになる	18	24.0%
こどもの言葉の発達が早くなる	3	4.0%
親子の絆が深まる	20	26.7%
親がゆったりとした気分になる	2	2.7%
子どもの感性が育つ	19	25.3%
子どもの知性の発達が育つ	3	4.0%
子どもが落ち着く	1	1.3%
親の子どもへの愛情が深まる	1	1.3%
子どもが親を好きになる	0	0.0%
思い出になる	1	1.3%
親が絵本を楽しめる	1	1.3%
人の話を聞ける子になる	6	8.0%
計	75	100.0%

表1-8. 育児について

項目	平均	SD
子どもをうまく育てている	2.91	0.77
子どもの寝顔がかわいい	4.91	0.37

育児をどうしたらよいかわからない	2.99	1.03
子どもは一人で育っていく	2.76	1.16
一人で育児をしている圧迫感がある	2.03	1.17
育児によって自分が成長している	4.24	1.05
子どもを育てるために我慢をしている	2.16	0.97
生活の中にゆとりを感じる	2.79	1.06
毎日くたくたになる	2.96	1.28
感情的に接してしまう	2.41	0.95
はりつめた緊張感がある	1.65	0.94

(結果と考察)

事前調査に協力いただいた75名は、回答者全員が母親であった。その特徴を調査結果からまとめると、90%以上が「絵本を見たり読んだりするのは好き」と答えている。また、実際に絵本の読み聞かせを子どもと一緒に週1～2回程度している。さらに、赤ちゃんが絵本を楽しみ始めるのは、3～4ヶ月かもしくは1歳前だと考えている。

また、母親自身は幼いころに50%程度が絵本を読んでもらっており、50%はほとんど読んでもらっていないか、覚えていないと答えている。

絵本を子どもと一緒に見ることで得られる良い点については、「親子の絆が深まる」26.7%、「子どもの感性が育つ」25.3%、「子どもが本好きになる」24.0%などと感じている。

育児観として、5段階評定での平均値は「子どもの寝顔がかわいい」4.91、「育児によって自分が成長している」4.24、の2つの肯定的な項目が4点以上の高得点を得ており、次いで「育児をどうしたらよいかわからない」2.99、「毎日くたくたになる」2.96、「子どもをうまく育てている」2.91を始めとして、2点台に集中している。否定的な育児項目が3点を上回っていないことは好ましいが、子育てに関しては苦慮している様子が伺える。

2. 幼児期の絵本体験と現在の養育の関係

幼いころに絵本を読んでもらったことが強く印象に残っている場合、そのことが現在のこどもの養育に何らかの影響があるのであろうか。われわれは今回、質問5の「あなた自身は幼いころに絵本を読んでもらったことがありますか」という問いに対して「よく読ん

でもらった」と回答した方23名と、「ときどき」「あまり」「読んでもらっていない」「覚えていない」という回答をされた方52名を分けて一部比較(検討)をしてみた。

調査項目

- あなたは絵本を見たり読んだりするのが好きですか。
- 赤ちゃんはいつ頃から絵本を楽しめると思いますか。
- お子さんと一緒に絵本を見ることでどんな良いことがあると思いますか。
- 現在の育児についての質問(11問)。

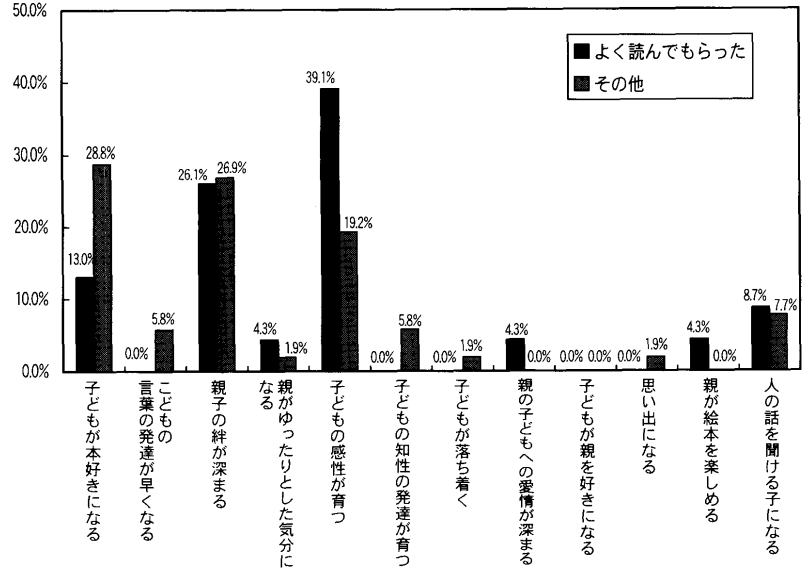


図1-3. お子さんと一緒に絵本を見ることでどんな良いことがあると思いますか

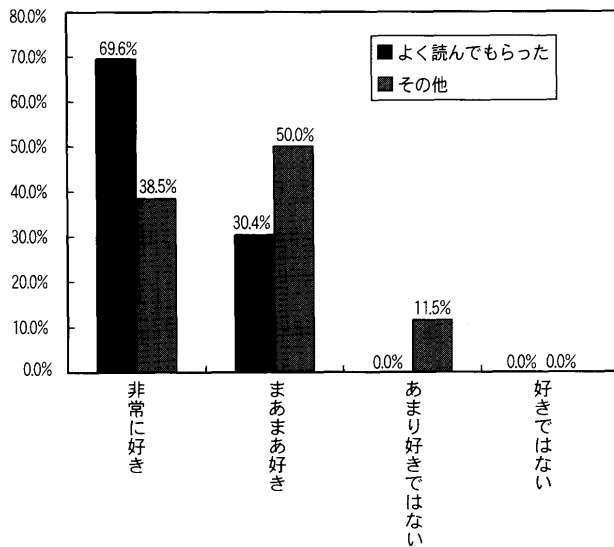


図1-1. あなたは絵本を見たり読んだりするのが好きですか？

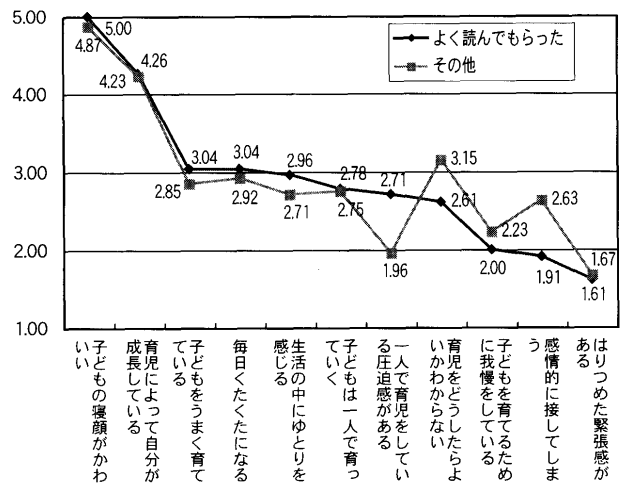


図1-4. 現在の育児についてお答えください

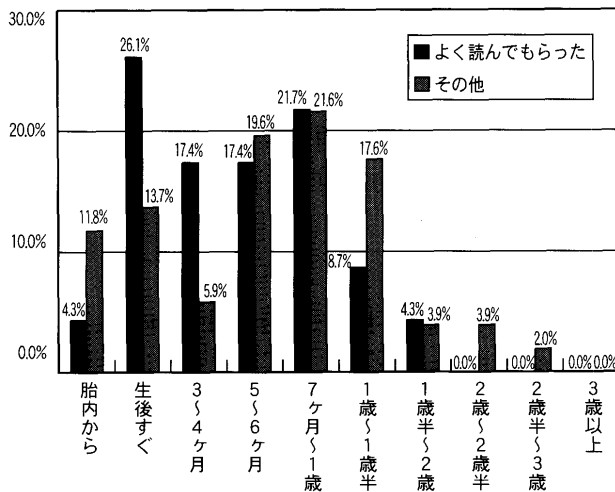


図1-2. 赤ちゃんはいつ頃から絵本を楽しめると思いますか

(結果と考察)

幼いころに絵本をよく読んでもらった群とその他の群には、回答の割合に差がみられた。絵本を読んでもらった記憶が鮮明に残っている群の特徴を捉えてみると、その他のグループに比べて、「絵本を見たり読んだりするのが非常に好き」(69.6%)であること(その他群; 38.5%)。「赤ちゃんは生後すぐあるいは3~4ヶ月から絵本を楽しみ始める」(43.5%)と感じていること(その他群; 19.6%)。「絵本を子どもと一緒に読むことで子どもの感性が育つ」(39.1%)ということを良い点だと評価していること(その他群; 19.2%)な

どが上げられる。

また、育児観については、「育児をどうしたらよいか分からない」(2.61)、「感情的に接してしまう」(2.00)など否定的な項目についての平均点が低く(その他群;3.15、2.63)育児に対する苦痛の感情が比較的少ないといえるのではないだろうか。

これらの結果について考察をしてみると、幼いころに「絵本をよく読んでもらった」という記憶は、よく読んでもらったという単純な記憶だけではなく、絵本を媒体にして母親を始めとする大人が自分自身のために、ある時間と空間を共にしてくれた。また、そのことを通して母親や大人に十分に受け入れられたよさや楽しかった・うれしかった経験などが同時に鮮明に刻まれているのではないかと思われる。これらの記憶は自身が母親となった現在も、絵本を媒体としてわが子とのコミュニケーションを取りながら理解を深めることや、親子の関係を高めることをごく自然に体得しており、結果として育児不安の低下にも寄与している可能性があるのではないだろうか。

II. 事後調査について

10ヶ月健診時にブックスタートに関する説明や読み聞かせに関する実施要領や説明とともに絵本入りのブックスタートパックを手渡した。事後調査はそれから2週間が経過した後、ブックスタートパックに同封していた質問紙に回答を記入し返送していただいた。

ブックスタートパックの内容:

・絵本関係;

A: じゃあじゃあびりびり (偕成社)

ちいさなうさこちゃん (福音館)

たんたんぼうや (福音館)

B: おつきさまこんばんは (福音館)

がたんごとんがたんごとん (福音館)

いないいないばあ (童心社)

以上、合わせて6種の絵本のうち保育者本人がA・Bそれぞれより1冊ずつ絵本を選んだ。

・「赤ちゃんのすきなもの知ってる」(アドバイス集)

・「赤ちゃん楽しむ絵本リスト」

・その他;

「図書貸し出し登録申し込み書」

「子育て支援センター紹介」

「児童相談案内紹介」

「ブックスタート用布製かばん」

「10ヶ月健診を受けられた方への質問紙」

説明内容:「読書推進運動」第401号より

- ・ブックスタート事業は絵本が字や数を覚えるためのものではなく、抱っここの暖かさの中で優しい言葉が交わされる時間を持つ際のツールとなること。
- ・字を読めない赤ちゃんでも抱っここの暖かさの中で本を開いてお話してもらったり話かけてもらうことが嬉しく、満足感や人への信頼感を培えるということ。

実施要領:

まず、10ヶ月健診時に、受診に来た乳児に対して担当者(図書館員もしくはブックスタート推進員)が実際に絵本を開きページをめくりながら読んでみる。

次に保育者が乳児を膝に抱いたまま絵本を開きながら子どもに語りかける。子どもの反応を確認しながら必要に応じて担当者が指導する。

質問紙の返送:

10ヶ月健診後2週間の期間を置いて、ブックスタートパックに同封された質問紙に記入後、返信していただいた。

質問内容及び調査結果を以下に示す。

1. 実態調査

(質問内容詳細)

1. 現在お子さんにテレビを見せていますか。
2. どのくらいの頻度で見せていますか。
3. 赤ちゃんはいつ頃からテレビを楽しめると思えますか。
4. お子さんと絵本を一緒に見たり読み聞かせをすることがありますか。
5. それはどの程度行いますか。
6. 赤ちゃんはいつ頃から絵本を楽しめると思えますか。

7. お子さんと一緒に絵本を見ることでどんな良いことがあると思いますか。
8. ご自身と同年代の赤ちゃんをもつ方と育児について話をすることがどれくらいありますか。
9. 配偶者や祖父母など周囲の人は育児を実際にどの程度助けてくれていますか。
10. 現在の養育についての質問 (11問)。
11. ブックスタートパックをもらった後の行動について (15問)

表 2 - 1. テレビを見せているか

項 目	人数	割合
見せている	59	54.1%
親や兄弟と見せている	46	42.2%
見せていない	4	3.7%
計	109	100.0%

表 2 - 2. テレビの頻度

項 目	人数	割合
毎 日	80	77.7%
週に 4 ~ 5 日	12	11.7%
週に 2 ~ 3 日	2	1.9%
週に 1 日	2	1.9%
ごくたまに	7	6.8%
計	103	100.0%

表 2 - 3. いつからテレビを楽しむか

項 目	人数	割合
生後すぐ	7	6.4%
3 ~ 4 ヶ月	14	12.8%
5 ~ 6 ヶ月	19	17.4%
7 ヶ月 ~ 1 歳	46	42.2%
1 歳 ~ 1 歳半	14	12.8%
1 歳半 ~ 2 歳	6	5.5%
2 歳 ~ 2 歳半	2	1.8%
2 歳半 ~ 3 歳	1	0.9%
3 歳以上	0	0.0%
計	109	100.0%

表 2 - 4. 絵本の読み聞かせをしているか

項 目	人数	割合
している	71	65.7%
兄弟と見せている	29	26.9%
していない	8	7.4%
計	108	100.0%

表 2 - 4. 読み聞かせの頻度

項 目	人数	割合
毎日	11	11.5%
ほとんど毎日	24	25.0%
週に 4 ~ 5 回	19	19.8%
週に数回	36	37.5%
したことはある	6	6.3%
計	96	100.0%

表 2 - 6. いつから絵本を楽しむか

項 目	人数	割合
生後すぐ	23	21.7%
3 ~ 4 ヶ月	26	24.5%
5 ~ 6 ヶ月	15	14.2%
7 ヶ月 ~ 1 歳	27	25.5%
1 歳 ~ 1 歳半	9	8.5%
1 歳半 ~ 2 歳	4	3.8%
2 歳 ~ 2 歳半	1	0.9%
2 歳半 ~ 3 歳	1	0.9%
3 歳以上	0	0.0%
計	106	100.0%

表 2 - 7. お子さんと一緒に絵本を見ることで一番得られるものは

項 目	人数	割合
子どもが本好きになる	19	17.6%
こどもの言葉の発達が早くなる	5	4.6%
親子の絆が深まる	27	25.0%
親がゆったりとした気分になる	4	3.7%
子どもの感性が育つ	38	35.2%
子どもの知性の発達が育つ	6	5.6%
子どもが落ち着く	3	2.8%
親の子どもへの愛情が深まる	2	1.9%
子どもが親を好きになる	0	0.0%
思い出になる	3	2.8%
親が絵本を楽しめる	0	0.0%
人の話を聞ける子になる	1	0.9%
計	108	100.0%

表2-8. 同年代の赤ちゃんを持つ方と育児について話すか

項目	人数	割合
毎日	2	1.8%
ほとんど毎日	11	10.1%
週に2~3日	23	21.1%
週に1回	31	28.4%
ほとんどない	42	38.5%
計	109	100.0%

表2-9. 配偶者や祖父母など周囲が育児を助けてくれるか

項目	人数	割合
ほとんどひとり	9	8.3%
時には助けてくれる	29	26.6%
助けてくれる	19	17.4%
よく助けてくれる	28	25.7%
たいへんよく助けてくれる	24	22.0%
計	109	100.0%

図2-10. 育児について

項目	平均	SD
子どもをうまく育てている	3.06	0.76
子どもの寝顔がかわいい	4.91	0.34
育児をどうしたらよいかわからない	3.01	1.00
子どもは一人で育っていく	2.85	1.09
一人で育児をしている圧迫感がある	2.48	1.09
育児によって自分が成長している	4.12	0.92
子どもを育てるために我慢をしている	2.66	1.07
生活の中にゆとりを感じる	2.73	0.95
毎日くたくたになる	3.04	1.12
感情的に接してしまう	2.89	0.89
はりつめた緊張感がある	2.00	0.92

表2-11. ブックスターパックをもらった後の行動の変化

項目	平均	SD
もらった本を見るようになった	4.22	0.77
親が絵本に興味をもつようになった	3.94	0.92
プレゼントに絵本をもらいたくなった	3.93	0.92
家にある本をみるようになった	3.87	0.88
読み聞かせ会等に興味を持つようになった	3.65	1.04
父親も絵本を子どもと見るようになった	2.89	1.28
父親が育児に参加するようになった	2.86	1.06
絵本を買うようになった	2.81	1.10
図書館に連れて行くようになった	2.47	1.27

(結果と考察)

事後調査に協力いただいた109名の内訳は、母親107名、父親1名、不明1名であった。

その特徴を事後調査からまとめると、テレビと子育てについては、「毎日子どもにテレビを見せている」、赤ちゃんがテレビを楽しみ始めるのは「生後7ヶ月から1歳」の間だと考えている。

絵本の読み聞かせも90%以上がしているが、その頻度は「ほとんど毎日」から「週に数回」までのバラツキが見られる。赤ちゃんが絵本を楽しみ始めるのは「生後すぐ」から「1歳まで」の間でほぼ均等なバラツキを見せている。

テレビと絵本の結果を比較すると、赤ちゃんはテレビを楽しむのは生後7ヶ月以降だが、絵本は生後すぐからでも楽しむことができると考えている。しかし、赤ちゃんが10ヶ月を過ぎると、親子での絵本の読み聞かせよりもテレビを見せている頻度が高くなり、現代の育児とテレビの関係が非常に強いことを物語っている。

絵本を子どもと一緒に見ることで得られる良い点については、「子どもの感性が育つ」35.2%、「親子の絆が深まる」25.0%、「子どもが本好きになる」17.6%などが上位を占めている。事前調査と比較すると「子どもの感性が育つ」が10%程度上昇しており、ブックスターパック以降2週間ではあるが、保育者の実感を反映しているのではないかと考えられる。

同年代の赤ちゃんを持つ方との育児についての会話は、「ほとんどない」38.5%、「週に1回」28.4%であり、同年代間での会話の機会が少ない。また、周囲の方からの育児援助については、助けてくれると回答した割合が60%を超えており、「ほとんどひとり」という回答は8.3%だったことから、配偶者あるいは祖父母などの育児援助を比較的受けやすい環境にあることが想像される。一方で8.3%の母親は一人で育児に携わることが育児に対して重圧感を感じることに繋がっている可能性もあるのではないだろうか。

育児観として、5段階評定での平均値は「子どもの寝顔がかわいい」4.91、「育児によって自分が成長している」4.12、「子どもをうまく育てている」3.06、と肯定的な項目に続き、「育児をどうしたらよいかわからない」3.01、「毎日くたくたになる」3.04、の否定的な

項目があがってくる。これらの育児観を事前調査と比較すると、「子どもをうまく育てている」の平均が高くなっていることと同時に、育児に対する「圧迫感」「緊張感」「忍耐」「感情的行動」の平均も高くなっている。

ブックスタート以降の行動の変化としては、「もらった本を見るようになった」4.22、「親が絵本に興味を持つようになった」3.94、「プレゼントに本をもらいたくなった」3.93を始めとした変化が報告され、ブックスタートの効果が認められたといえよう。

2. 絵本の読み聞かせと養育感の関係

ブックスタート事業はその後の子どもの養育に効果

をもたらしているということがこれまでの調査結果から読み取れた。しかし、育児観に関しては必ずしも肯定的な変化ばかりだとは言えなかった。

そこで、今回、われわれはブックスタート以降も「絵本の読み聞かせをしていない」と答えられた8名に着目し、「絵本の読み聞かせをしている」群との行動の変化と、人数の偏りは大きい育児観について比較検定を試みた。

調査項目

1. 絵本の読み聞かせの有無とブックスタート後の行動の変化との関係。
2. 絵本の読み聞かせの有無と育児観の比較。

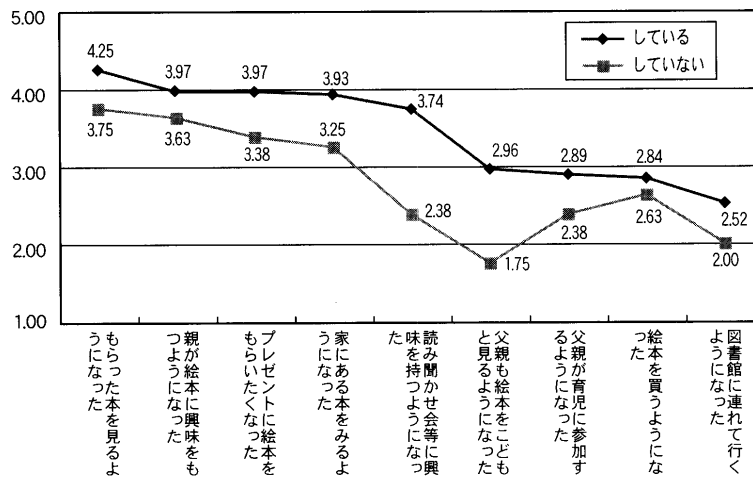


図2-1. 絵本の読み聞かせによる行動変化の比較

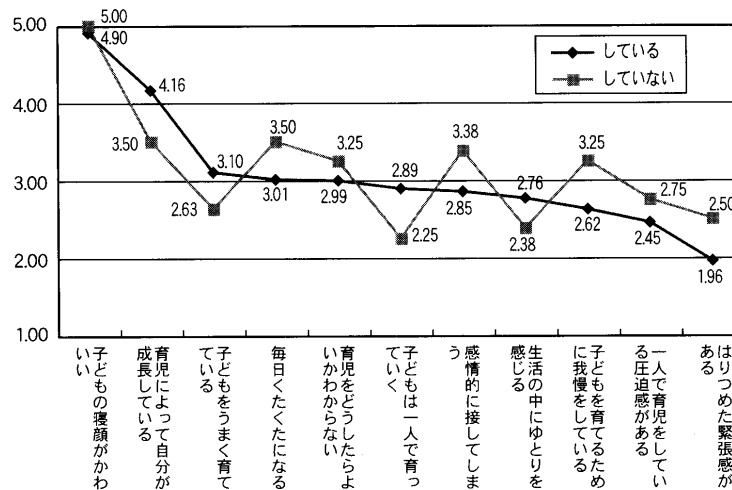


図2-2. 絵本の読み聞かせによる育児観の比較

表 2 - 12. 絵本の読み聞かせによる育児観の比較

読み聞かせ 育児項目	している (100名)		していない (8名)		t 値	検定
	平均	SD	平均	SD		
子どもの寝顔がかわいい	4.90	0.36	5.00	0.00	-0.77	n.s.
育児によって自分が成長している	4.16	0.09	3.50	1.07	1.97	P < .10
子どもをうまく育てている	3.10	0.70	2.63	1.30	1.70	P < .10
毎日くたくたになる	3.01	1.09	3.50	1.41	-1.19	n.s.
育児をどうしたらよいかわからない	2.99	0.99	3.25	1.28	-0.69	n.s.
子どもは一人で育っていく	2.89	1.07	2.25	1.28	1.60	n.s.
感情的に接してしまう	2.85	0.86	3.38	1.18	-1.59	n.s.
生活の中にゆとりを感じる	2.76	0.95	2.38	0.92	1.08	n.s.
子どもを育てるために我慢をしている	2.62	1.05	3.25	1.28	-1.60	n.s.
一人で育児をしている圧迫感がある	2.45	1.09	2.75	1.17	-0.74	n.s.
はりつめた緊張感がある	1.96	0.87	2.50	1.41	-1.59	n.s.

(結果と考察)

ブックスタート後も絵本の読み聞かせをしていない群としている群にはその後の行動の変化や育児観に微妙な差が生じていることが見出された。

まず、行動の変化は両群ともに絵本への興味が増してはいるが、その変化量にかなりの違いが見られた。特に「読み聞かせ会等に興味をもつようになった」に関しては読み聞かせ実行群3.74、不実行群2.38と大きな差が見られた。また、「父親も絵本を子どもと見るようになった」に関しては不実行群1.75と特に低く、母親の態度を通しての父親の子育てへの影響も垣間見られるものとなった。

育児観に関しては、t 検定の結果「育児によって自分が成長している」「子どもをうまく育てている」の2項目のみの傾向ありという結果にとどまったが、肯定的項目のいずれの平均も読み聞かせ実行群が高く、否定的項目のいずれの平均も不実行群が高い結果となった。

これらの結果より絵本の読み聞かせを実施している場合、読み聞かせを実施していない場合に比べて、育児満足の高揚と育児不安の低減が見られた。このことは、ブックスタート事業の有効性をさらに裏付けるものとなったといえよう。

読書力というものとは全ての学習の基礎であり、最も重要なものの一つである。しかし、このブックスタート運動によりもたらされた「絵本」が作り出す親や周囲の大人と子どもとの温かな時間と空間は、読書力の

向上という枠内に留まらず、親にとっても乳児にとっても豊かな心をはぐくむことの出来る大切なひと時であると考えられる。その乳幼児期の記憶が時間を越えて引き継がれブックスタート事業の目的が地域に根ざした活動として定着し、乳児と保護者が幸せな思い出を作り合いながら、地域で楽しく、そして何よりも、安心して子育てが出来る環境をつくるのがブックスタートの最終目的となるであろう。

われわれは、このブックスタート運動の経過と有効性について今後更なる調査を継続する。

(まとめ)

今回の母親の乳幼児養育に関する調査(ブックスタート事業の関わり)において、主に以下のような結論に達した。

1. 絵本を読んでもらった記憶が強い母親は
 - ・母親になっても絵本が好きである。
 - ・赤ちゃんは生まれてすぐに絵本を楽しめると思う。
 - ・絵本は「子どもの感性を高める」と思う。
 - ・育児不安の度合いが低い。
2. ブックスタートを受けることで
 - ・絵本への意識が高まった。
 - ・絵本の読み聞かせをしている。
 - ・赤ちゃんは生まれてすぐに絵本を楽しめると思う。
3. ブックスタート後も絵本の読み聞かせ無しの場合
 - ・比較的絵本への意識が変わらない。
 - ・父親の絵本への意識も変わらない。

- ・育児不安が大きい。
- ・育児満足が低い。

以上の事柄を総合的に考えると乳幼児期の絵本を利用した読み聞かせやそれに伴う心身の接触などの繋がりは成長後も印象深く記憶に残り、母親となった場合においても育児に際して同じように絵本を媒体として利用している。そしてそのことが育児不安を低減し育児満足に繋がっている可能性を今回の調査は示唆している。

したがって、ブックスタート事業の有効性を支持するものとなった。

「参考文献・資料」

- ・中川素子他(2001)「絵本の視覚表現—そのひろがりとはたらき」日本エディタースクール出版部
- ・三森ゆかり(2002)「絵本で育てる情報分析力」
一声社
- ・「第1回ブックスタート全国大会資料」2002年2月7会場；千代田区公会堂 主催；ブックスタート支援センター
- ・「絵本でつなぐ親子のブックスタート 読書環境意識調査報告書」2001年3月 恵庭こども読書推進ネットワーク開発実行委員会
- ・「恵庭市ブックスタート事業概要説明」平成14年10月
恵庭市立図書館
- ・河合隼雄(1996)「大人になることのむずかしさ」岩波書店
- ・柏女霊峰(2004)「子育て支援と保育者の役割」
フレーベル館